

# ラパスの便り

鳥夫々メキシコ海外実践教育カレッジキリム

④ 日本海

佐野 淳之

メキシコの山奥には

古くから人間が生活して驚くべき壁画を描き、自然植生に大きな影響を与えてきた。メキシコでの研修も終盤に近づいた11月12日から16日まで、メキシコ人学生を含めて総勢30

人で、南バハカリフォルニア州北端の旅に出かけた。前日に教員らが調査の目的や意義を説明されたサンフランシスコ山脈の古代壁画のうち、2カ所を見学した。ただし、この実習の目的は単なる壁画見学ではなく、壁画が描かれた古代の人々の暮らしを想像し、人間が自然に与えてきた影響を推定し、今後の自然と人間の関係を考察することにある。そのため、途中で植生調査や樹木

調査、ケレネグロの塩田やCIENOR支部の見学を経て、1993年に世界遺産に登録されたサンフランシスコ山脈の古代壁画のうち、2カ所を見学した。ただし、この実習の目的は単なる壁画見学ではなく、壁画が描かれた古代の人々の暮らしを想像し、人間が自然に与えてきた影響を推定し、今後の自然と人間の関係を考察することにある。そのため、途中で植生調査や樹木

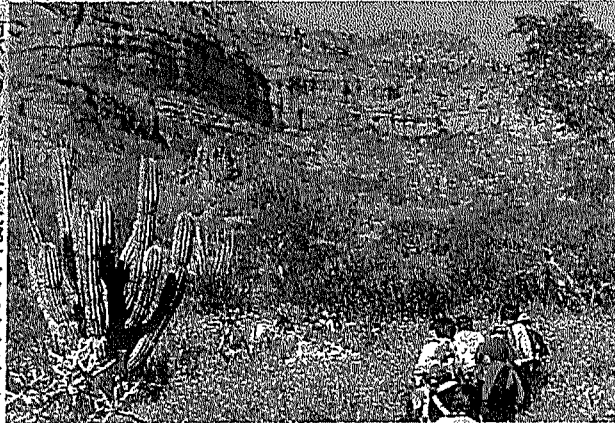
## 古代の壁画を訪れて 自然と人間の関係を考察

の二酸化炭素吸収量推定のためのサイズ測定と年輪調査を行ったが、周辺の景色は学生たちが息を飲むほどの大パノラマであった。巨人が描いたという説もあるほどの高い位置に、赤と黒で色分けされた人間や、当時周辺に生息していたであろう動物、特にヒツジ、シカ、ヒューマクジラや魚も描かれていた。

現在、この周辺に生活している少数の人々は、チーズを作るためにヤギをたくさん飼っている。そのため植生への攪乱が強く、ヤギの食べないトゲを持つサボテンなどの植物が多いが、その中には本だけナラ類が生育していた。

標高の低い地域では人間による直接的な攪乱、標高の高い地域では家畜、特にヤギによる間接的な人間による攪乱を受けており、自然植生と思われるものは谷筋や水のないフジに分布するマメ科などの樹木だけであった。歴史の古い日本の山陰地方と同様に、メキシコの山奥でも古くから人間は自然に大きな影響を与え、今後の自然と人間との関係を考えさせられた。

(鳥取大学農学部フィールドサイエンスセンター)



南バハカリフォルニア州北部サンフランシスコ山脈の洞窟に描かれた世界遺産の一つ、エル・パルマリーノの古代壁画に向かう学生たち